

リレーエッセイ「ハマの判事補の1日」（第20回）

法律家の卵～司法修習生～

横浜地方裁判所で刑事事件を担当しております，和賀千紘と申します。ハマの判事補になって2年目です。今日は，法律家の卵である司法修習生について，自分の思い出も交えながらお話ししたいと思います。

皆さんは，裁判の傍聴に行ったことがありますか。裁判員裁判では，傍聴席から見ると一番奥の一段高くなっているところに，裁判官と裁判員が座ります。その手前の中央に座っているのが，裁判所書記官といって，法廷に立ち会い，裁判の手續や証言を記録する調書を作成するなどしている職員です。書記官の位置から視線を横に移動させていくと，端の方に数名の司法修習生が座っていることがあります。彼らは，法律家の卵で，これから弁護士や検察官，裁判官等になる人たちです。

司法試験に合格すると，その年の11月頃から，約1年間の研修期間が始まります。これを司法修習と呼んでおり，司法修習を受けている人たちは，修習生と呼ばれます。修習では，修習生が全国各地に散らばって実務を学ぶ「実務修習」のほか，埼玉県和光市にある司法研修所に集まって授業を受ける「導入修習」と「集合修習」を行います。皆さんがハマの法廷で見かける修習生は，横浜で実務を学んでいる修習生ということになります。実務修習では，弁護士事務所，検察庁，裁判所（民事部，刑事部，家事部，少年部の全てを回ります。）を順番に回り，弁護士や検察官，裁判官に指導してもらいながら，実際の仕事の一部を体験します。修習期間は1か所につき2か月足らずと短いものの，将来どの道に進むかに関係なく，順番に見て回ることができるので，それぞれの仕事の実際を知ることができる貴重な機会です。修習生は，「二回試験」と呼ばれる卒業試験のようなものを無事通過すると，それぞれ，弁護士，検察官，裁判官になります。この三者を「法曹」といいますが，いったん実務家になってしまうと，他の法曹の仕事の内部を見ることはなかなかでき

ませんので、修習は、一生に一度の貴重な機会となります。

ここからは、裁判所での修習についてもう少しお話ししましょう。

裁判所の中には、裁判官室といって、裁判官が普段仕事をしている部屋がありますが、修習生も普段はこの裁判官室で過ごすこととなります。法廷で見る裁判官は、ひょっとすると、堅い、厳格、ポーカークフェイスとのイメージを持たれるかもしれませんが、実際に話してみると、結構きさくで、おしゃべり好きな人が多いというのが私の印象です。法廷でそのような様子を知ることはなかなか難しいですが、修習生として同じ空間で過ごすうちに、それを知るようになります。私が修習生の頃も、熱心な御指導をいただいたことは当然ですが、食事に連れていってもらったり、飲み連れていってもらったり、時には一緒にスポーツをしたりしながら、真面目なことからプライベートなことまで、いろいろお話をさせていただいて、とても楽しい時間を過ごしました。

修習生は、例えば刑事部では、実際の事件を傍聴するほか、どのようにして証拠から事実を認定し、適切な刑罰を決めていくかを学んだり、模擬裁判を行って事件の進め方を体験してみたりという勉強をしています。大学やロースクールで刑法や刑事訴訟法の勉強はしますが、プロの法曹が常に考えなければならないことは、六法に書いていないことばかりです。本にある記述や社会の常識を手がかりにしながら、自分の頭で考え、他の人と議論して、この事件をどうやって進めていくか、いつまでに、誰が、何を準備しなければならないかなど、自分なりの答えを見つけていかななくてはなりません。修習生のうちは、とにかくわからないことだらけで毎日が勉強なのですが、逆に言うと、毎日新しい発見があって、それがまた面白くもあるのです。

そんなことを考えながら、修習生は裁判官に疑問や質問をぶつけます。裁判官はいつも忙しそうに見えますが（2年目の感想としても、実際、なかなか忙しいのですが）、いつも気持ちよく応じてくれます。私もそのように応じられていると良いのですが。とはいえ、やはり修習生からすれば、プロの裁判官に質問するというの

は少なからず緊張するものです。私自身が小心者ということもあるかもしれませんが、修習生の頃は、今話しかけて迷惑ではないだろうか、自分はとんちんかんな質問をしてはいないだろうかなどと、裁判官に話しかけるのにいちいち緊張していました。でも、実は、裁判官の方でも、修習生の素朴な疑問や指摘は、自分の見方を改めて見直すきっかけになることが少なくないですし、とても良い刺激となるものです。修習生が遠慮がちに声をかけてくれる時は、自分が修習生だった頃を思い出して、ちょっぴり微笑ましい気分になります。

ハマの修習生から弁護士になる人の中には、ハマの弁護士になる人が少なくありません。この間も、私の所属する部で修習していた弁護士さんを見かけました。胸に金色のバッジを輝かせて裁判所のロビーを颯爽と歩いている姿を見ると、私が知っている頃よりも一回り頼もしくなったように見えて、ついこの間まで修習生だったのに、などと思いながらも、とても晴れやかな気持ちになります。今年の修習生も、無事に二回試験を乗り切って、実務家として立派に活躍してほしいと願っています。